



2009年5月3日

いま起きつつあること…



「生きている」信仰告白

信仰告白で大切なのは、その形よりもその内容であり、それが生きているものとなっているかです。

今回の講演の学びは「アキラ信仰告白」ですが、これはまさに現代に生きる教会の信仰を言い表した告白なのです。私たちの教会が、こうした現代の問題に対して信仰を言い表していることは「私たちの教会が（現代に）開かれている教会だということ」と荒瀬先生は言われています。

信仰告白を新たに言い表す

ある教派（教会）では、歴史的な信仰に立つウエストミンスター信仰告白を今でも大事な信仰基準と考え、それを受け容れつつ歩んでいきます。その点、私たちの教会は少し違って、ウエストミンスターの遺産を重んじつつも、それだけが信仰の基準であるという姿勢ではありません。そうではなく、荒瀬先生は「これまで二千年間、信仰を言い表してきた信仰告白は、それがどういう意味を持つのか、そしてそれを新たに言い表す用意がありますよとの信仰的な構えを持った教会なんだ」とも言われています。

金字塔である。しかしながら、それらは最後の言葉でも、最終的な言葉でも、究極的な真理でもない。四百年以上も前にまとめられ告白されたことを、そのまま単純に繰り返すことはできない。今日もわたしたちは、諸信仰告白から福音の深みを新たに、新鮮な仕方では把握するための、新たな洞察や理解力を与えられることを、信仰の自由と希望に基づいて学び取るものである」と。つまり、使徒信条と宗教改革時代の信仰告白に言い表された信仰の骨格をもって、私たちが真摯に信仰に生きていく時、現代の状況と切り結ぶ信仰の表明を必要としているのです。もし今も起こりつつある状況を見逃し続けるなら、遅かれ早かれ、私たちの信仰も干涸びていくでしょう。

信仰の真正性が問われる事態

グローバル化した現代社会の状況下で、何が起きているのか。そうした中で信仰上、見過ごすことができない危機的な事態に直面した時に、教会は真剣に信仰的な応答をしなければならぬと受け止めました。そして、ある状況が人間の尊厳をそこなっており、それに対して信仰者が福音をもって対峙しないのなら私たちの信仰の真正性が問われるというほどに深刻である事態を「信仰告白の事態」と称し、信仰告白が問題となる事態であるとして、たとえばアパルトヘイトを保持する南アフリカに対して信仰を表明してきました。

こうしたことから、今世界で起こっている経済的不正義と環境破壊に対して、教会が積極的に応答する必要性と緊急性を明らかにするために、「アキラ信仰告白」が今から5年前の2004年の世界改革教会連盟の総会で、採択されたのです。（次号に続く）